

## 『八百森のエリー』の魅力に迫る（上）

### ——担当編集者が語る

講談社『モーニング』編集部 吉原伸一郎

今、農業をテーマにした漫画がブームです。中でも注目されているのが、講談社発行の週刊漫画雑誌『モーニング』に連載中の『八百森のエリー』。青果市場の仲卸で働く主人公を介して、野菜や果実の流通をテーマにした作品です。担当編集者の吉原伸一郎さんに連載までの経緯と漫画を連載する意義について伝えてもらいます。

#### 感じた作者の「熱意の本気さ」

『八百森のエリー』の作者・仔鹿<sup>こじか</sup>リナさんとは、主にアマチュアの漫画家がオリジナルの作品を販売するイベント「コミティア」での出会いが始まりです。「コミティア」には、出版社の漫画誌がブース（出前編集部）を出しています。一度に多くの編集部と接触できるので、既にデビューされているプロの漫画家からの“持ち込み”を受けることが多くあります。そのブースに青果市場の「青果仲卸」を主人公にした漫画を描きたいと持ち込んできたのが仔鹿リナさんでした。以前、描かれたエッセー漫画『うちのダンナは野菜バカ』の単行本を片手に「エッセーでなく、フィクションの漫画で勝負したい」「青年誌で絶対描きたい」と言っていたと思います。そのときの私は、「青果仲卸」という職業に全く興味を持たず、「面白い！ すぐに描いてください」と“乗り気”になれませんでした。ただ、「青果仲卸」の社会的必要性を熱く語っていた仔鹿さんの「熱意の本気さ」が、頭の中に残りました。

『モーニング』で連載するには、3か月ごとに行われる編集会議で部員（編集者）の投票で1位にならないと連載にならないという「ルール」があります。コンペにエントリーするには、「ネーム」という漫画の設計図を3話分と、キャラクターの

イラストを提出する必要がありました。仔鹿さんは、既に他の漫画誌で連載を抱えていました。その仕事と並行して、ネームとイラストを準備することは、相当な労力と時間がかかります。しかも、無償でお金になりません。『モーニング』で連載を狙うには、“リスクと決意”が必要なのです。

「コミティア」では、多くの持ち込みを受けなければならず、ひとりひとりにあまり時間が取れません。プロの漫画家の方には、わざわざ持ち込んでいただいた「お礼」を伝えるため、電話をしているのですが、仔鹿さんの時は、「熱意の本気さ」が気になって、翌日、すぐに仔鹿さんに電話をしました。『モーニング』で連載するには、イラストに問題点があることを正直に伝え、編集会議のルールも確認しました。けっこう嫌な感じで、プレッシャーをかけたと思います。それでも仔鹿さんは「コンペには絶対提出します。イラストの問題もなんとかします！」と強い決意をされました。それからは、進行状況を聞くため、何度か電話をしました。抱えている仕事の進行が大変で、コンペの準備ができないときもありました。「絶対に間に合わせます！」と熱意は伝わりますが、まだ私には、「青果仲卸」という仕事に対して、編集者の勘というか、“ピン”と来るものがありませんでした。

## 絶対に漫画にしたいテーマ

それが「早く描いてください」と“前のめり”になったのです。それは、仔鹿さんに“ある”「みかん」の話をも具体的に聞いたときからです。みかん農家とJAの悩みと苦悩を解決するため、「そんなことをするのか!」と思わず感嘆してしまうほどの「青果仲卸」の仕事の素晴らしさと、農家の真摯な気持ちを知って、「絶対、漫画にすべきテーマだ!」と考えるようになりました。

私は、日頃から自分の口に直接入る野菜や果実が作られているプロセスを知っている人は、多くいないと感じていました。「高い、安い」という価格だけでしか、野菜や果物を選ばない人に“新たな価値観”を持ってもらうのは、とても意味があることで、たとえ、野菜や果実の値段が高いときでも、農家やJAの気持ちが分かれば、“正当な価格”と理解（納得）して、買ってくれる人は、増えるだろうと思いました。

世間の「青果仲卸」に対する「中間業者」というイメージと全く逆のお話だったので、漫画の中で劇的に描けば世間の認識（誤解）をひっくり返し、絶対に話題になると確信しました。漫画家（作家）の「想い」をすぐに引き出せなかった編集者としての未熟さを痛感し、仔鹿さんに「ごめんなさい」と謝りました。それ以来、「みかん」の産地や収穫される季節が気になるようになって、担当する漫画家さんへの差し入れも果物が中心になりました。『八百森エリー』の連載第1話には、“ある”「みかん」のエピソードにしたかったのですが、主人公のエリーを4月入社の新入社員にするため、季節を考慮して、先送りにしています。そのうち仔鹿さんが『八百森のエリー』の中で伝える予定です。楽しみにしてください。

## JAの皆さんに応援を

おわりに。連載を決定した編集会議において、研修中の女性新入社員の感想が印象的だったの



『八百森のエリー(1)』(モーニング KC)

定価：616円(税込み)

発行：講談社

でお伝えします。「誰かの役に立っているのか、分かりにくい仕事が多いと思うのですが、『青果仲卸』の仕事は、それが分かりやすく魅力的です」。仔鹿さんの「青果仲卸」に対する「熱意の本気さ」が伝わった瞬間です。「連載を長く続けたい」という仔鹿さんの“想い”をかなえるには、青果市場で働いている方々をはじめ、野菜や果実を作る農家、JAの皆さんの応援は絶対に欠かせません。『月刊JA』の読者の皆さんには、ぜひ、応援していただきたいです。『八百森のエリー』を通して、世間に「青果仲卸」という仕事を面白いと思ってもらいたい。農家とJAの想いを伝えたい。『モーニング』のポリシーである「読むと元気になる」漫画を目指し、担当編集者として、これからも微力ながら仔鹿さんをサポートしていきたいと思います。

今回は、作者・仔鹿リナさんによるオリジナルの作品を掲載する予定です。お楽しみに!